

地域社会との共生

マテリアリティ設定の背景

ムラタは、創業者の理念のもと、そこにムラタがあることが、その地域の喜びであり、誇りである企業、ムラタで働くことが、従業員の喜びであり、誇りである企業であり続けたいと願い、地域社会の一員としてさまざまな貢献活動に取り組んでまいりました。

近年、事業展開地域からムラタへの期待の高まりを受け、これまで以上に取り組みを強化させることが理念の実現に向けて必要と考え、当マテリアリティを設定しました。

目指す姿

事業環境の変化にかかわらず地域との調和を保ち、ムラタが地域にとっての誇りであることを目指します。

目指す姿の実現に向けて

地域社会からの期待により応えていくことができるよう、「社会・地域貢献活動基本方針」を見直すとともに、「社会・地域貢献活動ガイドライン」を制定しました。これによりグループ各社が主体的に地域のニーズや期待を把握し、地域の状況に応じて注力する分野を定め、地域課題の解決につながる活動への取り組みを進める仕組みを構築しました。

この方針のもと、地域の皆様とのコミュニケーションを大切に、「次世代育成支援、地域社会への支援、環境保護、文化支援、学術支援」といった取り組みを中心に、持続可能な社会の実現に向けて、継続的に活動を行ってまいります。

ムラタの社会貢献活動一覧
<https://corporate.murata.com/ja-jp/csr/people/society>

取り組み事例

Mulabo!オープン

STEAM教育・文化の発展に寄与すべく、「エンジニアの卵が生まれるきっかけの場」をコンセプトにした子ども向け科学体験施設「Mulabo!」（神奈川県横浜市）をオープンしました。



体験型プログラミング出前授業 「動け!!せんせいロボット」

「思考力、判断力、表現力、学びに向かう力、人間性など」を育むことを目的に、プログラミング出前授業を東京・京都・島根・岡山の小学校で取り組み、2019年度より通算12回実施、総受講児童数は544名となりました。受講された教諭、児童ともに大変好評をいただき、展開を進めている地域での受講希望校も増えています。今後も国内で順次取り組みを拡大していきます。



※2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により京都での2件のみ実施。(受講児童数133名)

新型コロナウイルス感染症対策支援

日本・中国・東南アジア・欧州の各拠点において、体温計や16万枚以上のマスクなどの物資支援を行いました。欧州では、人工呼吸器や集中治療室用の機器などを病院に寄贈しました。その後は、体制の支援に軸足を移し、各自治体に対して逼迫した医療現場への支援や、生活が困窮し学業の継続が困難な学生に対する支援を行いました。



TOPICS

ムラタは、京都府、セブン商店会（京都府長岡京市）とともに、CO₂濃度をリアルタイムに可視化し分析を行う空間可視化ソリューション「AIRSual（エアジュアル）」による、新型コロナウイルスへの感染リスク低減に向けた実証実験を実施しました※。

また、本社のある京都府長岡京市へも寄贈し、市からは「コロナ禍において、市民が安心・安全に公共施設を利用できる」と評価いただきました。密室でも適度な換気を促すことで「3密」状態の回避へとつなげ、クラスター発生の危険性低減が期待されます。



※ <https://corporate.murata.com/ja-jp/newsroom/news/company/csrtopic/2021/0525b>

村田学術振興財団を通じた支援

村田学術振興財団では、科学技術および文化の向上・発展のため、エレクトロニクスを中心とする自然科学の研究、人文・社会科学分野の諸問題の解決に寄与する研究を広く支援することを目的に助成金を交付しております。2020年度は計4億2,641万円、延べ306件の助成（海外派遣援助も含む）を実施しました。財団創設からの累計助成金額は43億円になります。